

観察した鳥類チェックリスト

- | | | | |
|-------------|------------|-----------|-----------|
| ★キジ目 | ★ツル目 | ★ハヤブサ目 | □ ツグミ |
| ・キジ科 | □ クイナ | ・ハヤブサ科 | □ ジョウビタキ |
| □ キジ | □ バン | □ チョウゲンボウ | ・スズメ科 |
| ★カモ目 | □ オオバン | □ ハヤブサ | □ スズメ |
| ・カモ科 | ★チドリ目 | ★スズメ目 | ・セキレイ科 |
| □ コブハクチョウ | ・チドリ科 | ・モズ科 | □ キセキレイ |
| □ オカヨシガモ | □ タゲリ | □ モズ | □ ハクセキレイ |
| □ ヨシガモ | □ ムナグロ | ・カラス科 | □ セグロセキレイ |
| □ ヒドリガモ | □ コチドリ | □ カケス | □ タヒバリ |
| □ マガモ | ・セイタカシギ科 | □ オナガ | ・アトリ科 |
| □ カルガモ | □ セイタカシギ | □ ハシボソガラス | □ カワラヒワ |
| □ ハシビロガモ | ・シギ科 | □ ハシブトガラス | □ アトリ |
| □ オナガガモ | □ タシギ | ・シジュウカラ科 | □ ウソ |
| □ コガモ | □ イソシギ | □ ヤマガラ | □ シメ |
| □ ホシハジロ | ・タマシギ科 | □ シジュウカラ | □ コイカル |
| □ キンクロハジロ | □ タマシギ | ・ヒバリ科 | ・ホオジロ科 |
| □ ミコアイサ | ・カモメ科 | □ ヒバリ | □ ホオジロ |
| ★カイツブリ目 | □ ユリカモメ | ツバメ科 | □ カシラダカ |
| ・カイツブリ科 | □ セグロカモメ | □ ツバメ | □ アオジ |
| □ カイツブリ | □ オオセグロカモメ | ・ヒヨドリ科 | □ オオジュリン |
| □ カンムリカイツブリ | ★タカ目 | □ ヒヨドリ | □ |
| □ ミミカイツブリ | ・ミサゴ科 | ・ウグイス科 | □ |
| □ ハジロカイツブリ | □ ミサゴ | □ ウグイス | □ |
| ★ハト目 | ・タカ科 | ・エナガ科 | □ |
| ・ハト科 | □ トビ | □ エナガ | □ |
| □ キジバト | □ チュウヒ | ・メジロ科 | □ |
| ★カツオドリ目 | □ ツミ | □ メジロ | (外来種や家禽) |
| □ カワウ | □ ハイタカ | ・ヨシキリ科 | □ バリケン |
| ★ペリカン目 | □ オオタカ | □ オオヨシキリ | □ ガチョウ |
| ・サギ科 | □ ノスリ | ・セッカ科 | □ アヒル |
| □ ヨシゴイ | ★ブッポウソウ目 | □ セッカ | □ ドバト |
| □ ゴイサギ | ・カワセミ科 | ・ムクドリ科 | |
| □ アマサギ | □ カワセミ | □ ムクドリ | |
| □ アオサギ | ★キツツキ目 | ・ヒタキ科 | |
| □ ダイサギ | ・キツツキ科 | □ シロハラ | |
| □ チュウサギ | □ コゲラ | □ アカハラ | |
| □ コサギ | | | |

【2月のテーマ】

古い地図を歩く

案内人：小泉 伸夫（鳥の博物館市民スタッフ）



出典：参謀本部陸軍部測量局発行 2万分1地形図 【一部を加工して使用】

▲明治14年（1881年：145年前）頃の手賀沼周辺。地図の中央よりやや右上あたりで、利根川が現在とは異なり、南に向かって大きく蛇行しています。次頁にある、もう少し後の時代の地図では、河道が直線に変えられていますが、蛇行していた部分は古利根沼として、当時の名残を現在に伝えています。

手賀沼周辺では時代とともに、風景が大きく変わってきました。古い地図には、各時代の地域の環境が正確に記録されています。そして、様々な年代の地図を見比べることによって、地域の環境がどのように変わってきたのかを辿ることができます。また、上の例のように、現在の地形の中にも、かつての形跡を見られることがあります。みんなで歩きながら、自分の目と足で、昔の地形を確かめてみましょう。

地図から見る手賀沼周辺の移り変わり



出典：大日本帝国陸地測量部発行2.5万分1地形図 【一部を加工して使用】

昭和3年（1928年：96年前）頃。沼が現在よりも広く、この頃にはすでに常磐線と成田線が開通しています。



オオハクチョウ



コウノトリ

柳橋悦が明治25年（1892年）に著した『鳧雁狩獵記』には、布瀬村（香取鳥見神社がある現在の柏市布瀬）で獲れる鳥として、コブハクチョウ以外のハクチョウや、日本では一時野生絶滅したコウノトリなどが記録に残っています。



出典：国土地理院発行2.5万分1地形図 【一部を加工して使用】

平成26年（2014年：10年前）頃。沼の東側が干拓され、鉄道や国道沿いに住宅地が広がり、手賀大橋ができました。



ハクセキレイ



インビヨドリ

ハクセキレイは、かつて本州以南では越冬のために飛来し、ほとんど繁殖しませんでした。繁殖分布を南へ広げ、関東地方には1970年代から進出したといわれています。その過程で、都市環境も利用できるような適応したと考えられています。また近年はインビヨドリも見られるようになりました。